

## 室浜地区復興まちづくり協議会・地権者連絡会 議事要旨

### 記

- 日時 平成26年5月24日(土)18時30分～19時15分
- 場所 市役所第4庁舎3階第7会議室
- 次第

1. 副市長からの挨拶
2. これまでの経緯
3. 土地利用計画(公園沿い道路の標準断面図、暗渠排水管敷設計画図・暗渠排水工を含む)
4. 事業実施スケジュール
5. 意見交換について

新しい団地を造った場合、用水路とか下水道は造られるのか？ 下水道は今までは漁業集落排水事業で浄化槽が造られて便利だった。そういう施設を今回も作ってもらえるのか？ また、上水道も今の槽をそのまま使うのかを聞きたい。

→ 上水道は、上に貯水池があり、それを利用して団地に水を引っ張っていきたいと思います。下水道は、以前は漁業集落排水が入っていましたが、津波で被災し、そのまま復旧しませんので、皆様には浄化槽などを設置していただき、下水処理をしていただくこととなります。

今度新しいところは、山を削って土盛りをして宅地を造るとのことだが、山を崩した跡地は何か利用する可能性があるのか？

→ このあたりに墓地もあり用地買収できるかの問題が残っており、将来的な跡地利用はまだ決まっていません。まず、団地造成の土砂がないので山切りをさせていただき、跡地利用は引き続き検討したいと思います。

片岸から室浜への新しい県道計画のために測量を行ったはずだが、その後の状況が全然わからない。約 200m のトンネル整備の話もあるようだが、進捗状況はどうか？

→ (沿岸広域振興局) : 一般県道吉里吉里釜石線ですが、国道 45 号線、J R 山田線の下をくぐって室浜まで来る道路は、現道より広く、団地に沿うように今設計を進めています。大槌吉里吉里に抜ける道路は、皆様にご協力いただき、用地を買わせていただき、予定通り団地造成と併せて県道工事が終わる予定です。質問があったトンネルや、山を切って大震災のような津波が来てもかぶらない高さに上げる道路は計画で進めています。用地測量が終わり、立ち会い等も行い、今後用地もご協力いただきながら進める予定です。トンネルは本年度末から工事を進めさせていただく予定です。

トンネルの事業年度はいつまでなのか？

→ (沿岸広域振興局) : 事業年度は今年度に着手し、トンネルを掘って最後に貫通させ、中の設備工事が終わるのは来年度中の予定です。ただ、車が通れるようにするには、今の県道より山側にルートを変えるため、トンネル前後のルート改良工事があり、順次用地のご協力をいただきながら、来年度以降に詰めていく予定です。

要望だが、山から土砂を取ることにしたが、そこから海まで 200m ぐらいしかなく近い。例えば、平田では汚濁水が流れ、養殖に支障をきたすことがあった。おそらく汚濁水が流れると思うので、それをガードする措置を講じてほしい。

→ 汚濁水は、海に流れないように沈殿槽などの施設を検討し、海に影響しない工事をしたいと思います。

海の中に船 1 艘と車 2 台が沈んでいるが、それを市は引き揚げないのか？ 車のエンジンが腐る前に急いで揚げないといけない。

→ 震災直後に水産課で行った漁港内の航路と泊地での土砂と瓦礫の撤去は、全部を取り切れていない可能性があります。そういう情報があれば、水産課で受け付け、後日調査後に撤去をさせていただきます。釜石東部漁協に確認し、できるだけ早く撤去したいと思います。

大槌側に行く県道でカモザカという場所があり、その道路幅が狭いのに海の高潮で土砂が削られている。危険だと思い、県に何度か見てもらったが、大丈夫だということでそのままになっている。今見ると道路に亀裂が入っており、そのような状況をわかっていながら、今回の津波をきっかけにした、危険な県道の見直しをしてもらえないのか？

- (沿岸広域振興局)：室浜の県道から山側が急な壁であり、下がっていくところの前後で、そのような崩落危険箇所があるとの情報が入っていなかったため、後日現地を確認させていただきたいです。今回の復興関係の県道改良工事ですが、吉里吉里釜石線は国道 45 号から将来的に防潮堤ができ、その乗り越しをしたところまでが今の県道改良計画になっています。具体的な危険箇所は、担当課でも把握しておりますので、後日確認させていただきたいと思います。
- 県も毎週のように道路をパトロールで現地を確認しています。引き続き注意しながらパトロールをし、当時の経緯も確認させていただきたいと思います。

部落に 70 軒あったときには、鶯住居より大槌側の商店街を利用することが多く、県道利用率も大槌側のほうが多かった。車 1 台しか通れない県道のため、波に削られて危険に感じるの、これを機会に県道を見直しをしてほしい。

- 現地を確認し、引き続きパトロールで危険がないよう注意していきたいと思います。改良は今回の計画にはないですが、「こういう要望があった」ことは持ち帰り、部内で共有いたします。

(副市長) 震災当日、大槌のほうに車で逃げた方がいて、土砂崩れがあり、引き返して津波にのまれました。そこは復旧されていると思いますが、室浜の方から「この沢から山を越えて、『マイヤ』に行ける道を造ってほしい」との要望が強かった場所です。ぜひとも、大槌に抜ける道の改良もよろしくお願いします。

丘のほうにも、大きな家の柱などがれきが残っており、それはどうなるのか？

- がれき撤去事業は終わっていますが、いずれ工事に入りますので、その中で現地を確認し、量が多い場合には調整が必要ではあるものの、撤去できるかどうかを確認させていただきます。

(副市長) 逆に、がれきではなく、自分の家のほこら、石碑など残してほしいものがある場合があります。そのようなものがあれば、事業の中でいったん仮置きし、また戻すことも可能なので、申告していただければと思います。

ここに造成・盛土をするが、既存の地盤とどのような関係になるのか？ 即時沈下はなくても後で圧密沈下などの地盤沈下があったら困るので、ボーリングなどでわかることを説明してほしい。

→ (県土地開発公社) : ボーリング調査などでかなり堅固な地盤であることは確認しています。砂礫層でN値が30以上あり、普通の構造物を建てても大丈夫な地盤です。

地盤沈下は止められるのか？ N値30は何mあるのか。厚さは3~4mか。土地で強度がある支持地盤がないと困る。

→ 今のところ、沈下はないと思いますが、盛土材は近傍の山から削り、きちっと締まるように細かく砕き、盛土転圧する造成の仕方を考えています。N値が30以上の砂礫層より下は、当然基盤岩となります。今回山切りするところも基盤が出てくると思いますが、それも含め、盛土材として活用していきたいです。

転石は？

→ 転石は今のところ確認していませんが、造成で従前宅地の基礎などを全部除去し、盛土転圧していきます。その際に、大きな転石があれば対応していきたいと思います。

(副市長) 今日スケジュールがこのようになって申し訳ないという話がありましたが、これから鋭意頑張って事業を実施してまいります。27日の入札で業者が決まり次第、その業者に早く段取りしていただき、早く工事を進めなければなりません。工事にあたり地鎮祭を行います。室浜と根浜、桑の浜の3地区をまとめてどこか一箇所で行うことについて、3地区同時に県土地開発公社が受託者で進めてもらうので、検討させていただければと思います。

(市民) : 地区ごとで、別々に地鎮祭を開催してほしい。

(副市長) また後ほど、相談させていただきたいです。市ではブロックごとで行っており、ご相談させてください。皆さんが希望を持てる方法が一番良いと思います。これから事業を一生懸命実施しますが、皆さんが希望を持って早く現地に戻れることを実感できるよう、鋭意進めますので、今後ともどうぞよろしくお願ひします。本日はどうもありがとうございました。

以上